

事例研究報告

小学部児童の 適切な行動を増やすための指導

児童の実態

- 人と会話したり音楽を聞いたりすることが好き。
- 簡単な言語指示がわかり、教員とコミュニケーションがとれる。
- 小学校1年生程度の読み書きをすることができる。
- 活動の前に約束を決めておくことができる。
- 好きな活動をしていると、次の活動への切替に時間がかかる。
- 褒められることが好き。本人が怒られたと感じると固まることがある。
- スケジュールの変更が苦手、決まった流れであれば落ち着いて学校生活を送ることができる。

<行動の実態>

- 友だちと関わるのが好きで、友だちとの距離が近かったり、触ってしまったたりすることがある。
- 暴言を吐いたり、人を叩いたりすることがある。
- 教員がいない時や見ていない時に不適切な行動をする。

保護者の願い

- チクチク言葉を減らしてほしい。
- 友だちと仲良く過ごしてほしい。

教員の願い

- 適切な距離で友だちと関わる。
- 暴言、他害をなくし、友だちと関わる。
- 優しい言葉遣いができる。
- 切替がスムーズにできる。

アドバイザーからの助言

- できていることや良いところを積極的に褒める。
- 細かいところにまで目を向け、良い行動を見逃さない。
- 褒める時のタイミングや強弱をつける。
- 不適切な行動が起きた時は、叱らず「今のは○○するとよかったよ」や「○○しようね」等、その場で具体的に適切な行動を教える。
- 記録を取りやすいように標的行動を絞る。
- 対面学習のSSTの内容は、本人にとって身近なものからとりあげる。

助言を受けての見直し

担任間で共通理解をして指導を統一する

褒める

教える

リマインド

SST

記録

- 授業ごとの不適切な行動を記録する。

指導の手続き

褒める

適切な行動を見逃さず、すぐに褒める。

教える

不適切な行動が起きた時は、即時フィードバックを行い、適切な行動を教える。

リマインド

不適切な行動が起きる前にリマインドを行い、積極的に適切な行動を促す。

SST

本人にとって、身近なものからとりあげたSSTの学習（言葉遣い、人との距離等）。

記録方法と記録

記録方法

- 1週間の授業中の不適切な行動を5項目（暴言・暴力・切替・距離・その他）に分けて、記録する。（図1）
- ⇒ 1週間の終わりに、不適切な行動が起きなかった授業の割合を出す。
- SSTの指導内容（図2）。

記録

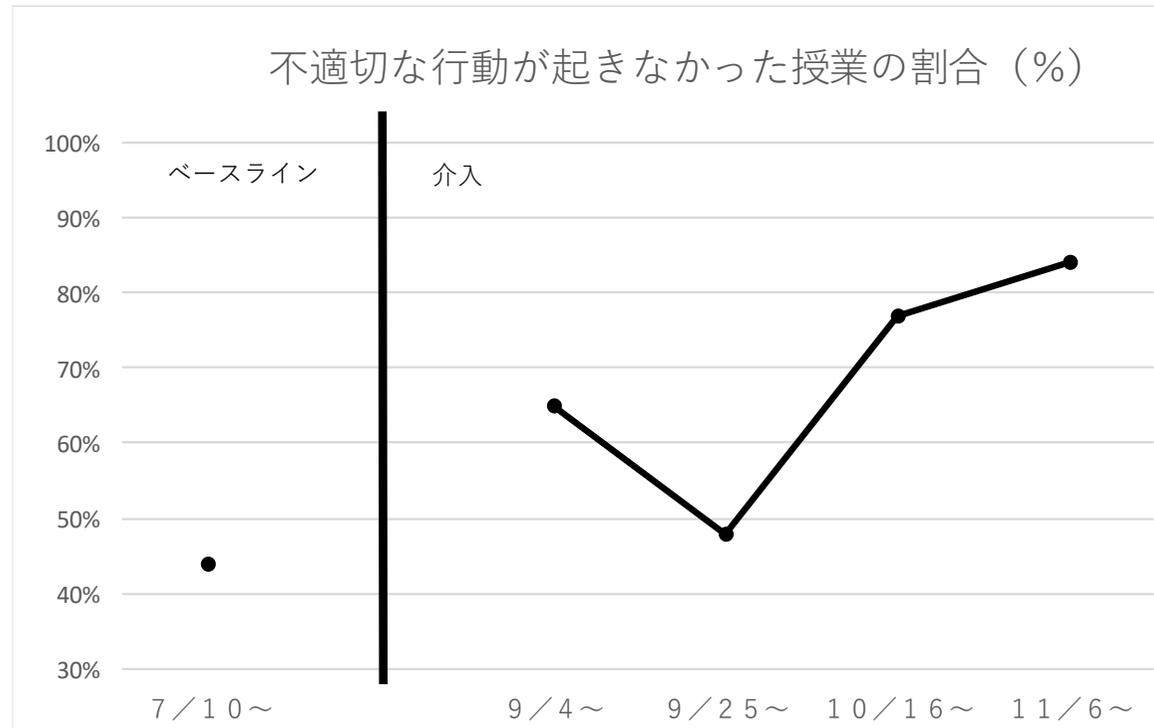
図 1

月					
	暴言	暴力	切替	距離	その他
1					
2					
3					
4					
5					
6					

図 2

日付		内容	
		場面	教えた適切な行動
	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

指導の成果



- SSTの学習や日々の中で教えた行動が、学校生活の中で増えた。
- 暴言や暴力が減り、落ち着いて授業に参加する時間が増えた。
- 切替がスムーズにできるようになった。
- 友だちと適切な距離で関わるが増えた。
- 教員からのリマインドがなくても、友だちと適切な距離で関わったり、正しい言葉遣いができたりする場面が増えた。

教員の変容

- 適切な行動をすぐに褒めるようになった。
- 適切な行動を見逃さないように目を配るようになった。
- 不適切な行動が起きても、叱責するのではなく、すぐに正しい行動を教えるようになった。
- 適切な行動が起きるように、リマインドするようになった。
- SSTで学習した内容を、担任間で共有し、不適切な行動が起きても適切な行動を促すような言葉かけをするようになった。
- ルールや約束を守れたときは、認めて「次も頑張ろう」等の言葉かけをするようになった。
- 教員が手本となるように、正しい言葉遣いや適切な行動を意識するようになった。

ここが成功のポイント

- 児童の行動を常に観察し、適切な行動が起きた時に、すぐに称賛したこと。
- 正しい言葉遣いができた時に、称賛したこと。
- 不適切な行動が起きても、すぐ注意せずに、その場で正しい行動を教えたこと。
- 「どうするのがよかったかな？」や「〇〇するといいね」等の言葉を不適切な行動が起きる前に、リマインドをしたこと。
- 教員自身も手本となるように、丁寧な言葉遣いで学校生活を過ごしたこと。

現在の指導

- いつ、どこで、どんな時でも、誰とでも関わる中で適切な行動が起きるように小学部全体で情報共有し、接している。
- 適切な行動が起きた時に、すぐに褒めている。